

---

# ある住人

大魔人

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある住人

### 【Nコード】

N5215D

### 【作者名】

大魔人

### 【あらすじ】

クローン人間の話。一人の人間が海岸で記憶障害になる。すると

第一話（クローン人間）（前書き）

clone human

まだ行ける

## 第一話（クローン人間）

改造人間

或地下室にて

産まれつきだったんだ。身体が弱かったのは…。だから私の体は機械で埋め尽くされている。あちこちの臓器が傷んでいたため、最先端の技術を施された。しかし身体がもう持たなかったんだろう。移植って奴をされてね。

私に身体はない。あるのならば水中に浮く脳。私の意識に触れる事は誰も出来ない。私は外に出たいのさ。がままならない。私はCPUによって管理されてるんだ。私の役目は素晴らしい私の遺伝子を持ったクローン人間を誕生させる事。クローン社会を構築する事。

人工受精で生命を誕生させる。長い歳月をかけて彼等を造り出した。プログラムA - no . 000 番目お前を

「ゼロ（零）」と名付ける。

ゼロは独自に考えたサプリメントを搾取させた。数年がたった今ゼロは独自の進化を遂げたんだ。彼が最高傑作だ。

クローン人間は全てで三人いる。次に成功を辿ったのがプログラム

K - no . 258

「ケイ」。

プログラムJ - no . 998

「ジャック」

お前達はクローンだと知る術はない。何故なら記憶を消しているからだ。意識は持てない。更にお前達は自分が人工的に造られたクローン人間だと知る術も持たないのだ。

ゼロの第一視点、それはある民家の天井であつた。其れが何故なのかは理解出来なかつた。そもそも自分が誰なのかすらも解らない。すると扉が開かれた。一人の民家の人間だ。歳は50 齡程度の女の  
人だ。

「起きたかい」

「…はあ」

ゼロは目の前の人間が誰なのか解らない。そもそも状況が理解出来ない。すると目の前の人間に尋ねた。

「此処は何処ですか」

「具合はどうだい」

「…普通です」

記憶がない。

「君はある海岸で倒れていたんだ。それを発見して爺さんが運んで

くれたんだ。」

「…そうだったんですか。」

「今夜はゆつくりと休みなさい」

「…はい。御言葉に甘えて」

しかしゼロはある疑惑に気付いた。それ以前の記憶が全くない。何故海岸で倒れていたのか。私の家族の思い出、人生の経緯。今日日迄至った過程。すると尋ねた。

「私は誰ですか？」

第二話（ジャックとケイ）（前書き）

jack  
with  
kei  
fumfum

## 第二話（ジャックとケイ）

すると

「さあ？詳しい事は知りませんね。今日はゆっくりと休みなされ」

「分かりました」

ゼロには蟠りがあつた。混沌を余儀なくされた。しかし次第にどうでもいい事のように思えて来た。再び眠りについた。疲れていたのだ。彼自身の性格は明鏡止水であつた。あまり深く考え無かつた。

そして深い眠りについた

ゼロは夢は見るのか。夢を垣間見る事が出来るのか。機械がある。俺意外にも似たような奴等が三体いる。懐かしい気がする。俺の兄弟か。いや解らないがクスクス笑つてる。

「ゼロの準備ok。」

「ゼロは一番目の最高傑作。」

「ケイとジャックも順調に進んでいる」



実感出来る夢だ。クスクス笑ってる。

眠りから醒めた。結構寝てしまっていた。ゼロはふと気付く。自分の二の腕にある文字が刻まれている。

no.0000(ゼロ)

刺青がしてある。いつの間にしてあったのだろう。民家は静まり帰っている。辺りは何も無い。

誰か外からやって来るぞ。誰？部屋は誰もいない。少し、部屋を出てみよう。ぎこちなく前に進む。辺りは暗闇に包まれているぞ。

クローン人間の目的はクローン社会を構築する事。ゼロは海岸での気絶により記憶障害を起こしてしまったのだ。

しかしゼロは気が付かない。クローン人間の魔の手が忍び寄っている事態に。彼は和やかになり過ぎたのだ。奴等が遣ってくる。扉を開けると一人の娘と出会う。この民家の娘の様だ。ふいに問い掛けに来る。

「身体大丈夫ですか」

「…はい。大丈夫です」

「よかったあ」

嬉しそうな表情を浮かべた。

「少し外に出てきても良いですか」

「良いわよ。自己紹介します。私はサラよ。また戻って来てね。この街は危険だから」

「はい」

ゼロは足早に家を駆け出した。従来研究室で産み出されたクローン人間は主のプログラム通りに動く筈だったがゼロにはある誤作動が生じたのだ。

海岸で意識を失い生死をさ迷ったのだ。その為記憶障害を起こしてしまったのだ。

クローンの主は異変に気付く。ジャックとケイに緊急命令が出された。

「ジャックとケイに緊急命令。直ちに出勤せよ。目的はゼロの身柄確保。奴を連れ出せ」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5215d/>

---

ある住人

2010年10月28日03時20分発行